

編集後記

平成6年(1994年)4月から、新しい学習指導要領による高等学校教育が始まる。生徒の個性を生かすカリキュラムの多様化を特徴としているので、生徒たちは、高等学校の3年間で、さまざまな科目を履修することになる。したがって、3年の後、平成9年の大学入学者選抜は、これを反映したものになることが要請される。

大学入試センターでは、平成4年6月に、大学入試センター試験教科・科目等検討専門委員会を設置し、このことについて、慎重な審議を続け、平成5年6月に、「平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について—中間まとめ—」を公表した。現在、大学、高等学校、学会等各方面からのご意見をいただき、最終まとめにかかっている。本号の資料などを参考していただき、わが国の大学入学者選抜が改善の余地はあるものの、世界的にも優れたものであることをご理解賜れば幸いである。

平成6年9月には、大学審議会が、「大学入試の改善に関する審議のまとめ」を文部大臣に報告している。その中には、高橋所長の巻頭言にも述べてあるように、当センターにかけられた課題と期待は大きい。

研究ノートとしては、柳井、前川、豊田の大学の各専門分野の進学適性、山田、岩田の国立大学女子志願者増、高野の大学入学者の追跡、山村のイギリスの大学入学者選抜に関する4本の研究を紹介した。

出題ノートとしては、東京大学教養学部大森教授、京都大学総合人間学部武内教授の論考をいただいた。センター試験の作題が、いかに緻密に、精魂込めてなされているか、真摯な態度で絶えざる改善が目指されているか、十分に読み取っていただけたことと思う。

報告としては、文部省科学研究費による国際学術研究の一貫として行われた11カ国の大学入学者選抜の実態を紹介した。ついで、柳井、藤芳、豊田3名の在外研究の報告をまとめた。

そのほかの資料として、研究紀要論文の抄録、研究開発部の業績、国立大学入学者選抜研究連絡協議会の活動、平成5年度大学入学者選抜に関する基礎資料を掲載した。有効にご活用いただければ幸いである。

おかげさまで、充実した大学入試フォーラム第17号をお送りすることができた。お忙しい中をご執筆くださった各位に深く感謝申しあげる。